

2022年度 聖マリアンナ医科大学看護専門学校
学校関係者評価委員会概要と評価結果（報告書）

学校評価委員長 高橋 恵

1. 第5回学校関係者評価会議の概要

1) 開催日程・場所

(1) 日時 2023年3月7日（火）13時から16時

(2) 場所 聖マリアンナ医科大学看護専門学校 1階7号教室

2) 委員（12名）

委員長 高橋 恵 聖マリアンナ医科大学 ナースサポートセンター長

委員 <学校関係者>

高等学校校長（2名）

<看護団体関係者>

公益社団法人川崎市看護協会 会長

<学校保証人>

卒業生保証人

在校生保証人

<法人関係者>

聖マリアンナ医科大学 副理事長 学校担当理事

聖マリアンナ医科大学看護専門学校 非常勤講師

聖マリアンナ医科大学 小児科学 講師

聖マリアンナ医科大学病院 看護部 副部長

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 看護部 副部長

本校同窓生

本校

校長 鈴木昌子

副校長 井上マユミ

委員 教務科長（1名）

専任教員（1名）

委員外 教務科長（2名）

事務長

書記

3) 事前配布資料

(1) 2022年度 自己点検自己評価改正の経緯

(2) 2023年度 自己点検自己評価表の見方

(3) 結果1) 全体の趣旨（平均点レーダーチャートを含む）

結果2) 大項目別評価 大項目 I～IX

【参考資料】

- 看護専門学校組織図、役割機能図
- 教職員の属性（経験年数・ラダーレベル名）（表）
- 聖マリアンナ医科大学看護専門学校【教員ラダー】
- 教員別授業担当・実習担当時間 2022年度実績（図表）
- 2023年度国家試験・学習支援対策
- 教育目標評価（2023年度3年次学生自己評価）
- 入学者数、卒業者数、卒後の進路 過去5年間の推移（図表）
- 看護師国家試験合格結果 過去4年間の推移（図表）

【その他の資料】

- 学生便覧
- 学習ガイダンス
- シラバス
- 実習要領

4) 議事進行

時間	内容	担当
13:00 10分	校長あいさつ ・趣旨説明、会議の取りまとめ方、公表について ・参加者紹介	鈴木
13:10 50分	2020年度自己点検自己評価結果説明 ・本校の状況 ・分析と対策	井上
14:00 10分	休憩	
14:10 20分	学校内見学 教室・実習室・教務室など	委員
14:30 30分	意見交換 ・説明についての質疑応答	司会：委員 書記：委員
15:00 40分	・本日の評価実施から公表までの進め方 ・評価実施 視点	司会：高橋委員長 書記：事務
15:40	まとめ	鈴木

はじめに

聖マリアンナ医科大学看護専門学校は、教育理念「キリスト教的人類愛と生命の尊厳を基本とし、国際社会に貢献しうる看護実践者を育成する」に基づき教育を実施している。学校評価を定期的に行い、検証し、改善案を含め公表し、教育の刷新につなげている。

本校での学校評価は2009年度から毎年実施し、本校専任教員が「自己点検自己評価」を実施している。その他「授業評価」「カリキュラム評価」「教育目標評価」などは本校学生が行っており、2018年度からは学校関係者評価会議（評価者は本学関連の学外者による）を開催し、本年度で5回目を迎えている。

本報告書は、2023年3月7日に「2022年度学校関係評価会議」として開催された委員会からの報告書である。

1. 学校関係者評価会議報告書作成にあたって

本報告書は、聖マリアンナ医科大学看護専門学校（以下、学校）からの依頼により、学校関係者会議委員が作成したものである。

学校では、2022年度学校関係者評価会議（以下、評価会議）の評価会議委員（12名）の指名を行い、2023年3月7日に評価会議を開催した。評価会議にあたっては、学校評価に係る資料が配布され、学校教員より学校評価結果について報告がなされ、その報告を基に評価会議委員で討議を行い、その結果を本報告書にまとめた。

2. 評価 について

1) 本評価の目的

本評価は、「看護教育を目的とした自らの教育活動、その他の学校運営について社会ニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さについて、評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること」を目的としている。

2) 本評価の方法と変更点

本評価の方法は、看護教育活動やその他の学校運営について、自ら設定した目標の達成に向けて取り組んできた活動経過をもとに、教員が自己点検・自己評価を行う。評価は各項目4段階で評価している。

また、前年度までの評価結果から、より評価の客観性を高め、評価結果を教員が効果的に活用できるようにするために、今年度は本校の実情に合わせ、信頼性の高い回答が得られるように、評価項目の配置や表現を変更するなど見直しを行

っている。

さらに、今年度は評価タイプをⅠからⅥまでの6タイプとし、タイプⅤ・Ⅵは重点的に対策を講じるように分類している。

3) 自己点検・自己評価結果

自己点検・自己評価結果については、まずは評価項目の9つの大項目の平均点の3ヵ年推移について、次いで各大項目の小項目ごとの評価結果と3ヵ年推移、その結果からの分析・今後の課題と対策について詳細に説明があった。

自己評価項目は、大項目9項目、小項目54項目になっており、学校教員個々により評価されている。2020年度から2022年度の3ヵ年の推移では、大項目、小項目共に概ね高い評価で推移しているが、2022年度は前年度に比較して全体的にわずかではあるが評価が低くなっている。その理由については、1. 新カリキュラムと旧カリキュラムとの同時進行によること、2. 本校の教員の組織構成がベテランの教員と経験の浅い教員との二極化していること、3. 3年に及ぶコロナ禍の影響によること、の3点を要因としている。

4) 評価結果に対する協議

今回の評価については、以下の視点で協議を実施した。

- (1) 自己点検・自己評価は客観的に行われているか
- (2) 自己点検・自己評価の結果の内容が適切か
- (3) 自己点検・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- (4) 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か

各視点の協議結果を以下に示す。

- (1) 自己点検・自己評価は客観的に行われているか

評価の実施は、常勤の看護教員による自己評価の結果を出している。実施している教員の評価は誠実に行われ、改善・向上していこうとする姿勢が窺える。そして、評価の参加者として、非常勤の看護教員や講師などからも得られると、より客観性のある評価になると思われる。教員の視点での評価だけでなく、学生の視点での評価も加わることで、より客観性が得られると思われる。

また、評価報告では、ネガティブな内容が多かったように感じられた。改善すべき点を中心に表現されていたのだと思われるが、実際には多くの工夫を実施したはずであり、成果があったことも多いと思われるため、その点についても評価として表現されていると、より客観的な評価になると思われる。できていること、成果として得られたことを認識できていると、教員自身の自信ややりがいにも繋がり、学生にも良い影響へと繋がって行くと思われた。

大項目Ⅲ「教授・教育・学習・評価課程」では、特に小項目13・14が毎年低く、今年度においても優先的に改善すべき項目となっている。評価結果の説明では、「自己点検・自己評価の視点よりも組織に対して改善を求める視点となっている教員もいたが、自分をもっとできたのではないかと低評価としている教員もいた」となっている。このことから、組織批判や自己批判にならないように、自己点検・自己評価を客観的に行えるような評価項目の表現を再考する必要もあると考えた。

(2) 自己点検・自己評価の結果の内容が適切か

今年度の評価結果の内容において、大項目Ⅴ「入学」のところでは、コロナ禍であることが行動の制限、制約により広報活動が十分できなかったとの内容になっているが、厳しく評価をしているように窺えた。この3年間で多くの工夫や今までには行っていないような新たな取り組み、実践もしていたはずである。例えば、高等学校では看護を目指したい学生が複数名いることから、本校に進路説明の依頼をすると、快く教員が高校に出向いて丁寧に学生に説明をしてくれた。また、看護職能団体主催の進路相談でも本校教員が積極的に参加して貢献している。

さらに、本校は他校に比較して退学率が低いこと、国家試験の合格率も高いこと、入学生を維持することが出来ていること等、様々な努力による成果があるため、行ってきたことの事実に対して、やれることはやってきたということの評価内容に含めることもより客観的で適切な評価の内容になると考える。

(3) 自己点検・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か

評価項目ごとに、評価結果に基づいた多くの改善策が提示されているが、委員からはいくつかの対策について提案が出された。

学生の到達目標として、自律性の育成や考える力を育成すること、自分の意見を述べられるようになることなどが挙げられているが、学生が臨地実習でのカンファレンスで、自身の意見を表現することができない場面がある。学内での様々な場面で表現する力を鍛える機会を作ってほしい。そうすることで、実習で意見を発することを通してさらにその力が伸びることが期待できる。ディプロマポリシーとして明示されている能力を座学、演習、実習など各場面で学生自身も意識しながら実践を通して力を身につけることができるように計画を立てて欲しい。

また、教員のブラッシュアップも学生を育成する上で大事な対策である。大項目Ⅷ「研究」では、評価点数としては維持できているが、今後も学外研修や学会への参加、研究の発表など、教員が主体的に自身のキャリアを積み重ねていける対策を継続して行ってほしい。教員個々が自己の目標管理やキャリアデザイン設計を行う、またそれらを支援する体制整備などにより、自身のブラッシュアップに繋げて欲しい。教員自身が生き生きと教育に携わることが、学生育成にも大きく影響すると思う。

4) 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か

学校運営についても、改善に向けて様々な取り組みが行われているが、この点についても委員から提案が出された。

授業では、非常勤講師に依頼している科目も多くあるが、非常勤講師と看護学校教員とのコミュニケーションが少ないように思われる。看護教員から非常勤講師へのフィードバックがあると、より学校が求めている内容になると考える。学校が行っている国家試験対策、学生の国試模試結果と状況、国家試験の傾向などについても非常勤講師に情報提供して共有することで、授業内容に繋げることができ、学校の運営の質もより高まることが期待できる。

5. まとめ

2009年度より、毎年「自己点検・自己評価」を実施し、2018年度からは「学校関係者評価」として本学学内関係者及び学外からの委員により毎年評価会議を開催してきた。毎年実施してきたことで、教育活動、学校運営、評価方法の見直しなど、改善、発展させており、本評価の目的は達成できていると判断する。

過去3年間においては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、学校運営に大きく影響を与えた。しかし、学生の学習進捗、学習習熟度に大きな影響もなく、安全に教育活動・学校運営を行うことができていたことは大いに評価できる。

今年度で第5回目の評価者会議となった。特に今年度は、評価項目を改正し、評価基準を明確にしたことで、今後の改善すべき優先順位を明確にすることができたことは、今後の改善に繋がることである。今後も、適切な学校評価を行い、本校の教育のさらなる発展を期待する。